

# しあわせ

2月号



あんらつこくど しょうごん  
安樂國土の 莊嚴は  
しゃか まげ  
釋迦無碍のみことにて

むしょうぶつ きみよう  
無称仏を 帰命せよ

(『淨土和讚』二八)

おごそかに飾られた淨土のありさまは、  
お釈迦さまの自在の弁舌をもつても、  
説きつくすことができないと言われる。  
ことばでは説きつくすことのできないみ  
仏に、おまかせいたしましよう。

(意訳)

## 「手を合わす母」

二月の第二日曜日はダーナの日。仏教婦人会連盟では、関東大震災の後、自分の身命を顧みず被災者の救護に奔走された本願寺のお嬢様である九条武子さまの命日にちなんで、毎年ダーナ募金を行っている。

昨年は、日本各地に大災害がもたらされた。農業をはじめ再起を断念しなければならなくなつた方々も多いようである。

諸行無常、諸法無我のことわり通り、自然界はいつ何が起つても不思議はないといつもお聞かせにあづかつていながら、現実に直面すると、とんでもないことが起こつたと驚きあわてる。

「のじ元過ぎれば熱さ忘れる」悲しくも愚かな我が現実にあきれかえるばかりである。

これを凡夫というのだろう。

「わかっちゃいるけど・・・」いやいや分かっていないからに違ひない。若干16歳のグレタ・トゥーンベリさんの活動に頭が下がる。

## 法座案内

広島開黙会 ー仏弟子に学ぶー

日時 二月二一日 午前一〇時(

講師 内藤 昭文師(本願寺派司教)  
会費 10000円

春季彼岸法要

日時 三月一九日 昼席より  
二〇日 昼席まで

講師 三浦 真證師  
(奈良県 本願寺派布教使)

府中町山田二丁目二一五十三  
柏原山 龍仙寺  
電話(0822)81-14823

法味の会 ーご和讃の味わいー

日時 二月二七日 午後二時(

会員 1000円



【ご和讃をよむ<sup>(21)</sup>】～語りつくせぬ世界～

前回のご和讃では、阿弥陀さまのお淨土が天上天下にならぶものない、すぐれたさとりの境界であることが讃えられていました。

## しあわせ

2019年2月

そのこころを受けて今回のご和讃では、その淨土のありさまは、お釈迦さまですら説きつかせない、それほど尊い世界であると讃えられています。このご和讃のもとなつてているお経文（無量寿經）では、とくに阿弥陀さまの光明のはたらきについて、昼夜を通して一劫ものあいだ説きつづけても説きつくことはできないとあります。親鸞さまは、そのお釈迦さまでも説きつくせないお徳を、淨土の莊嚴すべてにかけて、それほど尊いさとりの世界を完成されている阿弥陀さまを「无称仏」むじょうぶつと讃えられました。ことばでは説きつくせい仏さま、という意味です。お釈迦さまには四无碍弁しむげべんという自由自在な言語能力があると言われるのですが、そのような自在の弁舌を

「あんたがた、目をつむつて、安心して歩けますか？　まあ二十歩が限界やなあ。」

わたしの恩師の一人である梯実圓和上は、

高槻の行信教校というお坊さんの学校で生涯、教鞭をとられていました。その学校は揖津富田という駅から、線路沿いの一本道を二〇〇メートルほど歩いたところにあるのです

が、和上はその一本道を、ときどき目をつむつて歩いてみるのだと仰っていました。車は絶対に入つてこない、せまい歩道です。一本道なので、迷いようもありません。けれど、そのような一本道で前後に誰もいないときでさえ、目をつむつて歩こうとすると、二〇歩が限界だそうです。調子よく足が出るのは、せいぜい最初の五六歩で、だんだん足が出なくなつてしまふのです。

## しあわせ

2019年2月

くなり、十五歩をこえると怖くて足が出なくなるそうです。わたしたちは、自分の眼で見通せていないと、みずから暗闇を感じ、おそれを抱くものなのですね。しかし和上は、そのことを十分体感したうえで、仰いました。

「見えない世界におびえながら生きるのでなく、仏さまが見通してくださっている世界を仰いで歩ませていただきましょうなあ。」

このいのち、はたして何処へ向かっているのか。わたしには、いのちの意味を見通す眼はありません。見えないから、わたしたちはいのちの終りを「死」とよび、暗闇を感じ、おそれを抱くのでしょうか。しかし仏さまは、そうは仰つていません。もちろん仏さまも、いのちには終りがあると説かれていますが、そのいのちの終わりをむなしく亡くなつていいことだけは決して説かれていないのです。

「阿弥陀さまの淨土に、生まれさせていただきなさい」

(3)

日をつむつたまま、まぶたの向こうに螢光灯やお日さまのひかりを感じとる。見えないけれど、届いているひかりをいっぱいに感じる。子どものころ、そんな出来事に心はずませていました。お念佛とは、まさにそのような道なのですね。煩惱に覆われたこの眼では、生きることの意味さえ見通すことはできません。しかし親鸞さまは、見えないことを苦とするのではなく、仏さまが見通してくださっている世界を仰いで歩みぬかれました。ともにお念仏いただきましょう。このまぶたの向こうに、暗闇ではなく、語りつくせない世界を仰ぎながら歩ませていただきましょう。

仏さまは、そう仰つておられるのですね。  
安樂國士の莊嚴は  
釋迦無碍のみことにて  
とくともつきじとのべたまふ

むじょうぶつ　きみょう  
無称仏を帰命せよ

もつお釈迦さまが、久遠のときをかけて昼夜を通して説きつづけても、阿弥陀さまの淨土のすばらしさは説きつくせないのですね。